ご挨拶

本日は、お忙しい中ご来場いただき、誠にありがとうございます。

皆様のご支援、ご協力のもと、富士見公民館での第５回目の演奏会を開催できますことを心より御礼申し上げます。

今回は５回目の演奏会を記念いたしまして、昨年の演奏会の際に行いましたお客様投票で一番票を集めたショパンの名曲の数々をお届けいたします。

どうぞごゆっくりお楽しみいただければ幸いです。

最後になりましたが、日頃の皆様のご支援に心より感謝申し上げますとともに、なお一層の精進をお約束いたしまして挨拶とさせていただきます。

2016 年 10 月 30 日　出演者一同

◆ゲスト◆

紿田俊哉　＜ヴァイオリン＞

長野県出身

伊那北高等学校、慶應義塾大学卒業

4 歳よりヴァイオリンを始める。

慶應義塾大学ワグネル・ソサイエティ及び、同 OB オーケストラのコンサートマスターを歴任。フルート奏者・平野靖氏とジョイントリサイタルを、クラリネット奏者・木下尚慈氏とジョイントリサイタルを開催。現在は、OB オーケストラを中心に、JAO、その他アマチュアオーケストラなどにて精力的に演奏活動を継続。スズキメソード OB・OG 会副会長。

デュオの会　メンバー･プロフィール

上野亜依

国立音楽大学音楽学部演奏学科・鍵盤楽器専修卒業、同大学ピアノコース修了。これまでに渡部和子、星敬子、三木香代、菊永良枝の各氏に師事。現在は東大和市湖畔にて「上野亜依ピアノ教室」を主宰し後進の指導にあたる傍ら、出身地である福島県会津や東京を中心に、アンサンブルやソロでジャンルを超えた演奏活動を精力的に行っている。

星田千恵

東京音楽大学ピアノ科卒業。昭和音楽大学大学院修了。2004 年ワルシャワ・ショパンアカデミー・ピアノセミナーに参加。これまでに草川宣雄、金井紀子、浅見陽子の各氏に師事。現在、所沢市にて「ほしだピアノ教室」を主宰し、後進の指導にあたっている。

協賛　慶應義塾大学　東村山三田会

次回公演のご案内

♪デュオの会のコンサート Vol.6♪

2017 年 10 月 29 日（日）

東村山市　富士見公民館ホール

♪詳細はデュオの会ホームページで♪

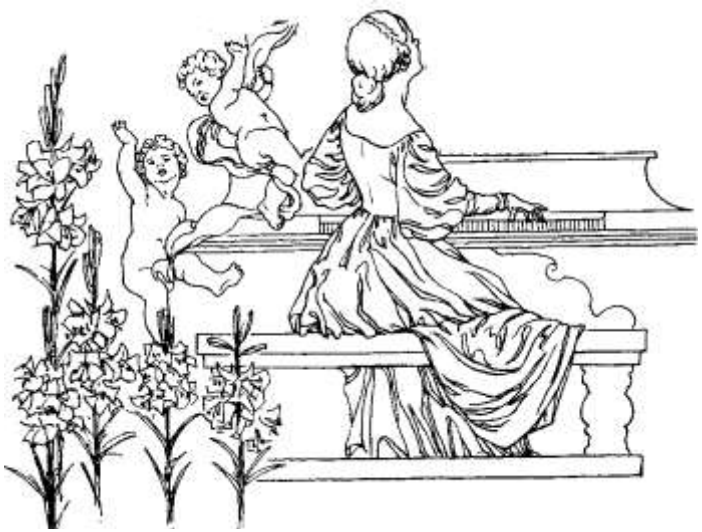
http://duonokai.wix.com/index

０歳から楽しめるデュオの会のコンサート Vol.5

ピアノの詩人

ショパンの名曲

～5 周年記念企画・オール ショパン プログラム～



2016 年 10 月 30 日（日）

東村山市　富士見公民館ホール

13 時 00 分開演

プログラム

◆前奏曲　作品 28－15　雨だれ　（星田）

◆ワルツ　作品 64－1　小犬　（星田）
　　作品 64－2　（星田）

◆華麗なる変奏曲　作品 12　（上野）

◆ノクターン第 20 番　遺作　（紿田・上野）

◆休憩◆

◆練習曲　作品 25－1　エオリアンハープ　（上野）

◆ノクターン　作品 9-2　（上野）

◆幻想即興曲　作品 66　（上野）

◆バラード第 1 番　作品 23　（星田）

ショパンの生涯

◆誕生～ポーランド時代

1810 年 3 月 1 日、ポーランドのジェラゾヴァ・ヴォラという小さな村で誕生。半年後、父親がワルシャワの高等学校のフランス語教授の地位を得たことでワルシャワへ引っ越した。母は、子守歌としてポーランド民謡を歌い、ショパンは生まれもってポーランド民族音楽に慣れ親しんでいた。4 歳の頃からピアノを弾いていたが、6 歳よりジヴニーに師事し、初めての作曲と楽譜出版は 7 歳の時、「ポロネーズ ト短調」であった。この作品は、弱冠 7 歳でありながらすでに真の天才だと絶賛された。12 歳より当時ポーランド最高の音楽家と言われていたエルスネルに師事し、ワルシャワ高等音楽学校に入学した。

◆ウィーン、そしてパリへ

20 歳の時、ポーランド国内が混乱をきたし、ウィーンへ向かう決意をした。しかし、ショパンがウィーンへ到着した頃、ポーランドではロシアからの独立のために反乱が起きた。当時、オーストリアはロシアの同盟国であったこともあり、ウィーンでの音楽活動は思うようにいかず、翌年パリへ移り住むことを決意する。パリへ向かう途中、故郷ワルシャワがロシア軍に陥落されたという知らせが届く。「練習曲 作品 10－12 革命」はこの頃作られたと言われている。

◆パリでの成功

パリでは、リスト、メンデルスゾーン、ベルリオーズといった有名な音楽家や貴族との出会いがあった。大富豪として有名なロスチャイルド家の夜会での演奏をきっかけにパリの社交界の花形ピアニストとなり、さらにピアノ教師としての評判も高く、経済的に豊かになり、ショパンの生活は大きく変化することとなった。

◆ジョルジュ・サンドとの出会い

ジョルジュ・サンドは恋多き女性として知られるショパンより 6 歳年上の作家で、男性名をペンネームに使い、男装をしていた。ショパンが 26 歳の時、二人はパリのサロンで出会い、恋に落ち、人目を避けるためとショパンの結核療養のためにスペインのマヨルカ島へ渡った。

◆マヨルカ島での生活

当時結核は不治の病として恐れられていたため、二人は山奥の修道院で暮らすこととなるが、島が雨季に入ってしまい、健康状態はさらに悪化する。そのような生活の中で「前奏曲集」「バラード」「ポロネーズ」「スケルツォ」といった作品が生まれている。しかし、健康状態は悪化する一方で翌年にはマヨルカ島を去ることとなる。

◆ノアンとパリでの生活

パリに戻って小康状態を取り戻したショパンは 30 代にかけて次々と傑作を生み出すこととなる。夏はノアンで過ごし、冬はパリに戻るといった生活で、サンドはショパンを献身的に支えたが、二人は恋人というよりも過保護な母親と庇護される息子といった様子になっていった。

◆サンドとの別れとショパンの死

35 歳の頃からショパンとサンドの不仲は深刻なものとなっていき、37 歳の時に破局。ショパンの気力は落ち込み、体調もさらに悪化していくこととなる。そして、39 歳という若さで帰らぬ人となった。20 歳で祖国を離れ、望郷の念にかられながらもついに祖国の土を踏むことが叶わなかったショパン。その心臓は、姉によってポーランドへ持ち帰られ、ワルシャワの聖十字架教会に安置されている。